

小学生が音楽や日本の遊びなどで国際交流

## 中国大連市から修学旅行生が来訪

1月13日、友好交流都市・中国大連市の鵬輝ほうき小学校から修学旅行生39人（4～6年生）が二里小学校を訪れ、児童たちと交流しました。これは、大連市と本市の青少年の交流を目的に実施されたもので、修学旅行生の受け入れは今回が初めて。

歓迎セレモニーでは、児童代表の吉富真波さんが「交流で仲良くなりたい」とあいさつ。5・6年生による踊り

や、全校生徒による校歌合唱で歓迎しました。両校の児童たちは英語で自己紹介をしたあと、折り紙やゲームをして交流を深めました。学校を後にした鵬輝小学校の児童たちは、学校給食センターで給食を食べ、大川内山で絵付け体験などをしました。

このほか、大連市の2つの小学校が、大川・東山代・牧島・大坪小学校を訪問し、交流が行われました。



↑両校からの声援で盛り上がった『おさるのかごやりレリ』



↑鵬輝小児童に鶴の折り方を教える二里小児童（中央2人）

日本の伝統文化を親子で楽しく体験

## 図書館フレンズ『新春かるた会』

1月17日、市民図書館で『新春かるた会』が開催されました。これは、昔ながらの遊びを通して、子どもたちに日本の伝統文化などを知ってもらおうと、『図書館フレンズいまり』が毎年この時期に開催しているものです。

この日は、幼児から大人まで約40人が参加。読み手の声を聞き漏らさないようにじつ

と耳を澄まし、絵札を見つけると、「はい」と大きな声を出して取り合っていました。また、百人一首では、小・中学生と大人5人が参加。熱戦が繰り広げられました。

この日使用されたかるたは、市内の名所などを題材に詠まれた『伊万里観光かるた』や、いろはかるたなど約50種類。参加者は、遊びながら、



↑絵札に手を伸ばす様子は真剣そのもの

交流を深めつつ、言葉の面白さや伝統文化の大切さなどを楽しく学んでいました。

## 郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリー所蔵 初期鍋島特集④

●問合先 生涯学習課文化財係

(☎) 3186

### 色絵梅流水文皿

鍋島焼は、生産が開始された当初、有田の岩谷川内の藩窯で焼かれていました。

その後、鍋島焼の技術の秘密を保持するため、民間の窯業者や商人が数多く出入りする有田から、三方を山に囲まれ、人の出入りを管理しやすい大川内山に藩窯を移転しました。これまでの発掘調査で初期鍋島の陶片が見つかったことから、移転後は大川内山の日峯社下窯跡で鍋島焼が生産されていたことがわかっています。

また、内側には、皿の周囲に沿って梅流水文が描かれていて、色絵は染付の下書き線の上にほどこされていきます。流水をあらわす染付は濃く深い色調で、盛期鍋島の特徴である一点の陰りもない明朗な作風とは異なる、古格ただよう作品となっています。

写真の作品は、1680年代に作られた初期の色絵の五寸皿で、口径が14・8センチメートル、高さは3・1センチメートルです。器形は全体的に浅く、水平に折り曲げら



『色絵梅流水文皿』